

## 神奈川県商工労働局幹部との懇談会



県商工労働局幹部と協会との懇談会を11月16日開催した。協会側は副会長はじめ23名が、商工労働局からは局長はじめ17名が出席した。

開会にあたり小田切副会長から「日本の産業界は円高、高い法人税、自由貿易協定の遅れ、強い環境規制、厳しい労働法制、原材料高の6重苦に加え、エネルギー問題やチャイナ・リスク等を加えた8重苦に苦しめられている。製造業が多い神奈川県は先行き不透明感が増し、産業の空洞化懸念は中小企業にも広がり雇用問題も若年層を中心に不安視されている。本日の意見交換で、産業界の対応を考えるとともに、産業界の要望等も計画の中に反映いただきたい。」との挨拶があった。

桐谷商工労働局長からは、「県の財源不足の問題については知事をトップとする緊急財政対策本部を作り検討を進めているが、単なる削減だけではスパイラルダウンで縮小均衡してしまう。地域経済を活性化させるためには、経済のエンジンを回す投資をしっかりと行うことが必要になる。その時最も重要なのは、実際の現場で神奈川の経済を支えている産業界各位のご意見ご要望を施策に活かすことが必要と考えている。本日は様々な意見交換をさせていただきたい。」との挨拶があった。

引続き県の各担当課長より、(1)中小企業対策、(2)中小企業金融円滑化法の終了後の施策、(3)県内中小企業の国際化支援の取組み、(4)さがみロボット産業特区、(5)神奈川県観光振興計画の改定、(6)就業支援に係る国との一体的取組み、(7)若年者等雇用対策、(8)西部総合職業技術校の開校、についての説明があった。

意見交換では、○県内中小企業の海外展開の動向と支援の内容、○県内中小企業の育成や成長産業の集積促進の実態、○国際会合・展示会等と観光振興、○就業支援に係る神奈川ルールの提案、○就職交流イベントの実態、等についての意見があった。(文責事務局)